

# 洞北中だより きずな

文責：北九州市立洞北中学校 校長 笠原 鶴代

## 平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

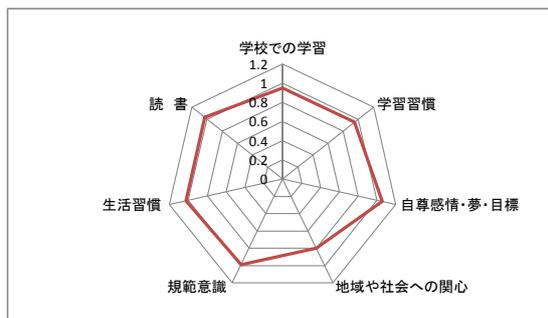
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全国平均正答率をわずかに上回ることができた。書く力を問う問題はできていたが、自分の考えをもったり、伝えたりする力に課題が見られる。 ・授業や、学級活動の中で、積極的に話し合い活動取り入れたりするなど、話し合いの場を教師が積極的に提供する必要がある。	上回っている
国語B	・全国平均正答率はわずかに下回っていたものの、北九州市の平均正答率は上回っていた。特に、場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する問題は高かった。 ・根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある。	下回っている
数学A	・全国平均正答率はわずかに下回っていたものの、北九州市の平均正答率は上回っていた。計算問題など基礎的な部分はできているが、文章から式を立てたり、扇形の弧の長さを求めたりと発展問題に対応する力が不足している。	下回っている
数学B	・全国平均正答率をわずかに下回っていた。特に、事象が成り立つ式や問題を説明する力が不足している。特に、無回答率が高いことが目立った。ねばり強く問題に取組む姿勢が求められる。	下回っている

### 2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



#### 質問紙調査の結果分析

・スマホ・携帯電話の所持率は増加したが、「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組により長時間使用している生徒の割合は減少した。  
・授業改善の取組により、授業の中で振り返る活動を行っていると回答している生徒の割合が増加した。また、話し合い活動を積極的に取り入れることで、自分たちで立てた課題に対して、自ら考え自分から取り組む生徒が増えた。

### 3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

調査結果から、授業の中で話し合い活動の時間や振り返りの時間を確保していることが分かる。しかし、深い学びにつながっているかということについては、生徒・教員両方のアンケート等の活用により検討する必要がある。話し合い、発表等のより一層の推進と学びの質を高める意識を教員にもたせるために校内研修を充実させる。

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

3年生になり、前年度よりも計画立てて勉強していること、家庭学習時間も増加したことが分析結果から伺える。本校で行っている1ページノート、天声人語の視写を一層充実させる。また、保護者にも目を通してもらい、協力体制を仰ぐ。